

平成28年人文学部  
教員研究業績一覧（2016.1.1.-12.31）  
Academic Achievements in 2016: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆

⑥学会・研究会等での報告

⑦上記以外の業績

早坂俊廣

③ 1) 申緒璐「楠本碩水の『朱王合編』について—並木栗水と楠本碩水—」（『国際哲学研究』第5号, pp.31~38）[単独訳] 2) 「王畿『龍溪王先生会語』訳注 其の二十一」（『白山中国学』第22号, pp.29~64）[共著] 3) 「王畿『龍溪王先生会語』訳注 其の二十二」（『白山中国学』第22号, pp.65~87）[共著]

⑦ 1) 市民講座「人生にツッコミを入れる哲学(1)~アンパンマンから考える~」（11月5日, 長野県カルチャーセンター）[単独] 2) 市民講座「人生にツッコミを入れる哲学(2)~忠臣蔵から考える~」（11月19日, 長野県カルチャーセンター）[単独] 3) 市民講座「中国思想における“恥”」（12月17日, 長野県日中友好協会）[単独]

三谷尚澄

② 1) 「表出主義的プラグマティストの真理観」（関西哲学会年報『アルケー』No.24, pp.1-14）[単著] 2) *Picturing and Meta-Linguistic Expressivism (Contemporary and Applied Philosophy: Selected Papers of 2nd CCPEA, pp.50-69)* [単著]

③ 1) 「刑罰」（スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会, 『スクリブナー思想史大事典・第3巻』, 丸善出版, pp.895-900）[単著] 2) 「自律」（スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会, 『スクリブナー思想史大事典・第5巻』, 丸善出版, pp.1689-1691）[単著] 3) 「生命倫理学」（スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会, 『スクリブナー思想史大事典・第5巻』, 丸善出版, pp.1986-1991）[単著] 4) 「疎外」（スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会, 『スクリブナー思想史大事典・第6巻』, 丸善出版, pp.2148-2150）[単著] 5) 「文化史」（スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会, 『スクリブナー思想史大事典・第8巻』, 丸善出版, pp.3108-3112）[単著]

⑤ 1) 「科学論, ソーシャル・ネットワーク, そして大学のいま」（信州大学大学院医学研究

科分子腫瘍学教室、『谷口俊一郎教授退官記念誌』, pp.155-156) [単著]

⑥ 1) On the Depth Grammar of Being a Person: What happens when Sellarsian philosophers meet Fusion Philosophy? (Thursday Seminar, School of Philosophy, Australian National University, Australia, 5月12日) [単独・国際]

⑦ 1) オーストラリア国立大学哲学科客員フェロー (1月1日～9月1日) 2) 長野県看護教員養成講習会講師 (10月26日, 27日, 11月2日, 9日, 10日) 3) 日本カント協会編集委員 4) 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「セラーズの哲学と20世紀英米圏における実在論哲学の影響関係をめぐる研究」研究代表者 5) 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) 「方法としての比較思想」研究分担者

護山真也

② 1) “Adhyavasāya and Imagination”, *Shinshu Studies of Humanities* 3, pp. 1-14 [単著] 2) 「ラトナキールティ著『主宰神証明の論駁』和訳研究 (下)」, 『南アジア古典学』11, pp. 127-146 [単著] 3) “A Note on the Sāṅkhya Theory of Causation in Utpaladeva’s Īśvarasiddhi”, E. Franco & I. Ratié (eds.), *Around Abhidnavagupta : Aspects of the Intellectual History of Kashmir from the Ninth to the Eleventh Century*. LIT Verlag, pp.287-298.

⑥ 1) “Dharmapāla and Kuiji on Self-awareness (*svasamvedana*) and Cognition of other minds (*paracittajñāna*)” (International Workshop: Buddhist Philosophy of Consciousness: Tradition and Dialogue, 国立政治大学, 台北, 3月11日) [国際・単独] 2) 「仏教認識論とエナクティブ・アプローチ」(比較思想学会第43回大会, 関西大学, 6月19日) [国内・単独] 3) “Some Remarks on *dharmisvarūpaviparītasādhana*” (*Indo-Chinese Cultural Relations through Buddhist Path of Transcendence*, 復旦大学, 上海, 12月11日) [国際・単独]

⑦ 1) 「〈色即是空〉の倫理学」(市民講座「哲学の散歩道」長野県カルチャーセンター, 12月3日, 17日)

金井直

① 1) 『自然の鉛筆』(「写真と彫刻 あるいは互惠性」を分担執筆, 赤々舎) [共著] 2) 『ウィーン—総合芸術に宿る夢』(「トリエステのウィーン人—ヴィト・ティンメルの場合」を分担執筆, 竹林舎) [共著] 3) 『夢みる人のクロスロード 芸術と記憶の場所』(「記憶と場 マライーニ家の鏡」を分担執筆, 平凡社) [共著]

② 「ロダン効果 アントニオ・カノーヴァの場合」(『オーギュスト・ロダン (1840-1917) —複合的視点でとらえる—』(静岡県立美術館ロダン館20周年記念国際シンポジウム記録論集, pp.85-93) [単著]

④ 「あいちトリエンナーレ2016」キュレーター (あいちトリエンナーレ実行委員会主催)

⑤ 1) 「白川昌生「消された記憶」に寄せて」(『REAR』第36号, pp.55-56) [単著] 2) 「Artist Interview Keisuke Yamaguchi」(『美術手帖』vol.68, no.1034, pp.165-179) [共著] 3) 「過去と未来の狭間にあり続けること 田口かおり『保存修復の技法と思想—古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』書評」(『表象』10号, pp.295-297) [単著] 4) 「面と反転 小林史子の作品」(『Nest 小林史子作品集』, 赤々舎, pp.227-230) [単著] 5)

「國府理の彫刻」(『KOKUFUBOOK 國府理作品集』, 青幻舎, pp.126-127) [単著]

- ⑦ 1) 企画展キュレーション「小田原のどか・白川昌生 彫刻の問題」(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー, 9月28日～10月10日) 2) シンポジウム「美術／芸術／アートの形成—美術大学の役割」(アーツ千代田3331, 11月12日)

北村明子

- ④ 1) アジア国際共同制作舞台作品「Cross Transit work in progress 2015」演出・振付・構成, せんがわ劇場, 2016.03.30-31, 芸術文化振興基金, 国際交流基金アジアセンター助成事業, 資生堂, アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団), Asian Cultural Council, 公益財団法人セゾン文化財団後援 2) アジア国際共同制作舞台作品「Cross Transit」演出・振付・構成, まつもと市民芸術館2016.09.22・シアタートラム2016.09.29-10.02, 一般財団法人松本市芸術文化振興財団主催, 平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業助成, 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター提携, アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)・芸術文化振興基金助成事業, アジアンカルチュラルカウンシル(ACC)協力
- ⑥ [単独・国際] 1) Asian Cultural Council Grantee Final Report, 2016.04.08 [協同・国際] <ファシリテーター&レクチャー> 2) 「Southeast Asian Choreolab 2016」, Rimbun Dahan 主催, 国際交流基金後援, 2016.5.27-6.06, Malaysia
- ⑦ ACC(アジアンカルチュラルカウンシル)トーク 第1回:北村明子-ダンスプロジェクト Cross Transit への旅 ~カンボジア, ミャンマー, マニプールの身体技法の誘惑~, 公益法人セゾン文化財団森下スタジオ Sスタジオ, 2016.05.20

濱崎友絵

- ⑥ 1) 「国民的楽器のあり方——ユーラシアの三弦撥弦楽器を比較する」(東洋音楽学会第67回全国大会, セッション企画, 放送大学, 11月6日) [共同] 2) 「トルコ共和国建国期における音楽とナショナリズム」(九州史学会 平成28年度大会, シンポジウム「トルコ共和国の歴史と現在」, 九州大学, 12月11日) [単独]
- ⑦ 1) 「トルコにおける『国民音楽』の成立」(東京藝術大学音楽学部特別講座「音楽学のフロンティア」招待講演, 東京藝術大学, 6月21日) 2) 「ラヴェルが描く魔法の世界」(信州大学人文学部×セイジ・オザワ 松本フェスティバル協同事業 Vol.2 公開講座, コーディネーター, 松本市中央公民館, 7月19日) [協同] 3) 「教えて!音楽のレシピ」(信州大学人文学部×セイジ・オザワ 松本フェスティバル協同事業 Vol.3 レクチャー・コンサート, コーディネーター, あがたの森文化会館講堂, 9月1日) [協同] 4) 日本学術振興会科学研究費(若手研究B)(平成25年度～平成28年度)「現代トルコにおけるロマの音楽伝承をめぐる実態研究——スクリレ地区を事例として」研究代表者 5) 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)(平成28年度～平成29年度)「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽とその伝承」研究代表者 6) 東洋音楽学会東日本支部委員(2014年12月～現在に至る)

菊池聡

- ② 1) A National Survey of Psychology Education Programs and Their Content in Japan. *Japanese Psychological Research*, 58, 4-18.. [共著] 2) 『陰謀論の心理学』 理科の探検, 12月号, p. 48-53. [単著]
- ⑤ 「超常現象と認知心理学」図書館教育ニュース1407号 [単著]
- ⑥ 「疑似科学への心理学的アプローチ」 日本科学哲学会第49回大会, 11月19日, 信州大学 [単独]
- ⑦ 1) 「だまされる心の心理学 ～人はどうして「思い込み」にだまされてしまうのか～」 (松本市特殊詐欺被害防止市民集会講演, 2月4日) 2) 「ポジティブに生きるための心理学」 (諏訪市市民大学講座, 2月16日) 3) 「だまされる心の心理学」 (松本市島立堀米公民館講演, 2月21日) 4) 「だまされる心の心理学」 (兵庫県西脇市市政10周年記念事業・消費者フェア講演会, 2月27日) 5) 「災害に備えて 安心安全のためにすべきこと」 (信州大学地域防災減災センター第2回市民防災シンポジウム, 3月5日) 6) 「だまされる心の心理学 人はなぜ詐欺にかかってしまうのか」 (下諏訪町文化センター講座, 3月16日) 7) 「災害と防災のための心理学」 (地すべり学会中部支部特別講演会, 4月20日) 8) 「なぜ疑似科学を信じるのか」 (長野県飯山高校 SSH 講演会, 5月12日) 9) 「だまされる心の心理学」 (NPO ライフデザインセンター講演会, 5月27日) 10) 「防災減災のための心の科学 リスク社会をいかに生きるか」 (平成28年度松本市防火管理協会上級講習会, 6月2日) 11) 「防災とリスク認知の心理学」 (山ノ内町防火管理協議会講演会, 6月24日) 12) 「明日の安全を確かなものにするために 防災とリスク認知の心理学」 (岡谷市平成18年7月豪雨災害10年伝承事業シンポジウム基調講演, 7月9日) 13) 「ポジティブに生きるための心理学」 (第86回長野県学校保健全県研究会, 8月2日) 14) 「だまされる心の心理学」 (松本市地域づくり課町会連合会新任町会長研修会, 8月4日) 15) 「災害と防災のための心理学」 (長野県林務部講演会, 8月29日) 16) 「前向きに生きるための心理学 ポジティブな心とだまされる心のしくみ」 (松本市健康づくり推進員連合会研修会講師, 9月13日) 17) 「“考える力” を身につけよう もうだまされないための心理学入門」 (松本秀峰中等教育学校 PTA 講演会, 10月15日) 18) 「人はなぜ不思議なことを信じてしまうのか 考える力を見につけるための心理学入門」 (徳島県脇町高等学校 SW-ing レクチャー講師, 11月25日) 19) 「地域で進める災害からの復興」 (いわて三陸復興フォーラム鼎談, 12月3日) 20) 「だまされる心の心理学」 (小川村熟年大学講師, 12月10日)

佐藤広英

- ② 1) 「情報プライバシーに基づく SNS 利用者の類型化：プライバシーに関わる被害経験および自己情報公開に対するリスク認知との関連」 (メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 15-26) [共著] 2) 「SNS 上での自己情報の公開を規定する要因」 (パーソナリティ研究, 25, 26-34) [共著]
- ⑥ 1) 「プライバシー情報提供の可否に関する一調査」 (2016 暗号とセキュリティシンポジウム, ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ, 1月19日) [共同] 2) 「Effects of expecting future interactions on factors affecting disclosure of personal information over the Internet

to a stranger」(The 17th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego, CA., January, 30) [共同] 3) 「Twitter における情報共有行動と賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連」(日本パーソナリティ心理学会第25回大会, 関西大学, 9月15日) [単独] 4) 「日本と台湾の高校生の意識調査(2): プライバシー意識の比較検討」(日本パーソナリティ心理学会第25回大会, 関西大学, 9月15日) [共同] 5) 「高齢者のインターネット利用に対するリスク認知の特徴」(日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学, 9月18日) [共同] 6) 「高校生の SNS における対人ストレスの特徴」(日本教育心理学会第58回総会, サポートホール高松, 10月10日) [単独] 7) 「How does the willingness for provide private information changes?」(The International Symposium on Information Theory and Its Applications 2016, Monterey, CA., November, 1) [共同]

⑦ 1) 「高齢者のインターネット上でのプライバシー意識に関する心理学的研究」(社会安全研究財団2015年度若手研究助成研究報告書, 2016年10月) [単著] 2) 社会言語科学会・学会誌編集委員(2013年4月～現在) 4) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集委員(2014年10月～現在) 5) WebLabMeeting・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員(2016年4月～現在) 6) 「潜在連合テストを用いた新たな心理的・身体的ストレス測定法の開発」(科学研究費補助金若手研究(B)研究代表者(～2018年3月)) 6) 「高齢者のインターネット上でのプライバシー意識に関する心理学的研究」(社会安全研究財団若手研究助成研究代表者(～2016年10月)) 7) 「インターネットの心理学: ネット依存, 人権問題を中心に」(安曇野市市民大学講座(信州大学編), 豊科交流学習センター「きぼう」多目的ホール, 10月4日)

#### 水原俊博

② 1) 水原俊博, 2016, 「自然災害に対する不安——2015年松本市住民調査の結果を中心に」『信州大学人文科学論集』3:15-28, [単著] 2) 水原俊博, 2016, 「多文化主義の規定要因の実証分析——松本市日本国籍住民調査(2014)のデータ分析を中心に」『地域ブランド研究』11:15-26, [単著] 3) 水原俊博, 2016, 「社会的現実の情報化=仮想現実化——後期ボードリヤールとヴィリリオ」『応用社会学研究』58:175-182, [単著].

③ スクリプナー思想史大事典翻訳編集委員会, 2016, 『スクリプナー思想史大事典』丸善出版(Horowitz, M. C., editor in chief, 2005, *New Dictionary of the History of Ideas*, Detroit: Charles Scribner), [共訳].

⑥ 1) 水原俊博, 2016.2.29, 「社会的現実の情報化=仮想現実化——後期ボードリヤールとヴィリリオ」, ハイパーメディアリアリティ研究会(第11回), 於: 立教大学, [単独] 2) 水原俊博, 2016.3.30, 「情報社会における社会的現実の選択的構成(仮)」, ハイパーメディアリアリティ研究会(第12回), 於: 立教大学, [単独] 3) 水原俊博, 2016.5.27, 「情報社会における社会的現実の選択的構成——『モビリティーズ』のメモ」ハイパーメディアリアリティ研究会(第14回), 於: 立教大学, [単独].

⑦ 1) 長野県の郷土と文化に関する調査(県民文化意識調査), 八十二文化財団, [共同] 2) 経済社会学会年報編集委員長(常任理事), 経済社会学会高田保馬賞選考委員

辻竜平

- ② 「誰が『集団的自衛権』を容認したのか：2014年松本市調査より」（『信州大学人文科学論集』 3, pp.29-44.）[単著]
- ③ ダンカン・ワッツ『スモールワールド・ネットワーク：世界をつなぐ「6次」の科学〔増補改訂版〕』ちくま学芸文庫.（10月10日）[共訳]
- ⑤ 書評「C. カドゥシン（著）五十嵐 祐（監訳）『社会的ネットワークを理解する』, 2015年, 北大路書房」（『社会心理学研究』 32(1) : pp. 70-71.）[単著]
- ⑥ 1) 「誰が「集団的自衛権」を容認したのか? : 2015年長野県調査より」（3月16日, 数理社会学会第61回大会, 上智大学）[単独] 2) “Network Locations and Political Orientations in Japan”（4月8日, International Network for Social Network Analysis, Sunbelt 35: International Sunbelt Social Network Conference, Newport Beach, CA, USA）[単独]
- ⑦ 『長野県におけるダイバーシティ～女性と定住外国人を対象に～ : 2015年度 長野県20市町村調査実習報告書』（信州大学人文学部社会学研究室）[単編著]

茅野恒秀

- ① 1) 『みなかみ町の自然と暮らし』（みなかみ町, 斎藤晋・久保誠二・茅野恒秀監修, 全121頁, 第8章「人と自然とのかかわり」71-79頁を執筆）[共著]
- ② 1) 「地域における再生可能エネルギー事業化の現状と課題：「統合事業化モデル」再考」（『サステナビリティ研究』 6 : 21-36）[単著] 2) 「再生可能エネルギー拡大の社会変動と地域社会の応答：固定価格買取制度（FIT）導入後の住民意識を中心に」（『信州大学人文科学論集』 3 : 45-61）[単著]
- ⑥ 1) 「環境ガバナンス時代における環境制御システム論の理論射程」（10月8日, 第89回日本社会学会大会, 九州大学）[単独] 2) 「津波被災地における震災5年後までの意識変化：岩手県大船渡市におけるパネル調査から」（10月9日, 第89回日本社会学会大会, 九州大学）[共同]
- ⑦ 1) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点」（2月20日, 宮田村大久保区学習会, 大久保集落センター） 2) 講演「放射能汚染された廃棄物の管理と最終処分」（2月26日, 駒ヶ根水と命を守る会, 赤穂公民館） 3) 講演「放射能汚染された廃棄物が関東から伊那谷へ?」（3月20日, FoE Japan 緊急セミナー, 東京・シータス&ゼネラルプレス） 4) 講演「住民生活への影響：廃棄物処分場問題を共に考えよう」（3月28日, 宮田村大久保区学習会, 大久保集落センター） 5) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点：今後の「説明会」への対応を念頭に」（4月15日, 宮田村大田切区学習会, 大田切集落センター） 6) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点：今後の「説明会」への対応を念頭に」（4月20日, 宮田村大原区学習会, 大原集落センター） 7) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点：今後の「説明会」への対応を念頭に」（4月22日, 駒ヶ根市東伊那区学習会, 東伊那公民館） 8) コーディネーター「地域に活かす自然エネルギーシンポジウム」（5月16日, 長野県, 長野県庁） 9) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点：住民として, よき消費者として考えてみていただきたいこと」（5月31日, 生活クラブ生協

駒ヶ根地区組合員学習会，一心館) 10) 座談会「赤谷の森から木育をはじめよう」(7月30日，みなかみ町，新治小学校) 11) 講演「エネルギー政策の経路依存と長野県における諸問題」(8月5日，被爆71周年原水禁公開講座，松本勤労者福祉センター) 12) 講演「自然エネルギーと地域社会：現状と変革の方向性」(9月23日，上田市民エネルギー，上田市中心公民館) 13) 講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場の問題点：「下流域」の住民として考える」(10月13日，駒ヶ根市上赤須区学習会，自彊館) 14) コーディネーター「自然エネルギー国際市民フォーラム」(11月1日，長野県，ホテル犀北館) 15) コーディネーター「しあわせ信州で地域エネルギーをつくろう」(11月12日，自然エネルギー信州ネット，鬼無里活性化センター) 16) 講演「遊びが記憶を紡ぐ里山」(11月23日，さとやま発展講座，国営アルプスあづみの公園) 17) 講演「メガソーラー開発問題とは何か」(11月24日，茅野市北大塩区学習会，米沢公民館) 18) 講演「みなかみの自然の恵みと地域エネルギー」(12月18日，みなかみ地域エネルギーフェスタ，みなかみ町カルチャーセンター)

#### 今井章

- ② 1) 「デルブーフ錯視からリップス大きさ錯視へ(2)—外円が移動する布置条件における事象関連電位の検討—」信州大学人文科学論集，3 (50)，63-75頁 [単著] 2) 「表情操作が心理・生理反応に及ぼす効果」信州大学人文科学論集，3 (50)，77-81頁 [共著] 3) 「地域の防犯における標識看板制作の試み—自転車盗難の防止策として—」地域ブランド研究，11，1-13頁 [共著] 4) “Magnetoencephalographic correlates of apparent motion illusion of beta movement” *Electronics and Communications in Japan*, 99, 46-54. [共著]
- ⑥ 1) “Rotating a disk? So what!?: Haptic illusion revisited” Invited seminar lecture in ImpAct, CNRL (2016.3.4, INSERM U1028) [単独・国際] 2) “Neural correlates of signal detection measures in perceptual tasks: An ERP study” Invited seminar lecture in Department of Psychology, Bournemouth University (2016.4.27, Lawlence lecture theatre, Bournemouth University) [単独・国際] 3) “Effects of prior experience of pain on empathic feelings for painful pictures with measuring physiological indices” The 31st International Congress of Psychology (ICP2016)(2016.7.29, Yokohama) [共同・国際] 4) 「大学生における強迫傾向と事象関連電位との関係—go/no-go 課題を手がかりとして—」日本基礎心理学会第35回大会プログラム，37-37頁 (2016年10月29日，東京女子大学) [共同]

#### 高瀬弘樹

- ② 1) 「表情操作が心理・生理反応に及ぼす影響」(信州大学人文科学論集，3，77-81.) [共著]
- ⑦ 1) トークイベント『ラヴェルが描く魔法の世界』(信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同事業，松本市中央公民館(Mウイング)ホール，7月19日) [協同] 2) レクチャー・コンサート『教えて！音楽のレシピ』(信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同事業，あがたの森文化会館 講堂，9月1日) [協同] 3) 日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「身体的相互刺激によるリラクセー

ション効果の生起機序の解明」(課題番号:15K13138) 研究代表者

岡本卓也

⑥ 1) 「Tourists' motivation and memories of positive or negative experiences.」 (『31st International Congress of Psychology』, PACIFICO Yokohama, 2016年7月) [単独・国際] 2) 「Construction of two dimensional sense of self scale」 (『31st International Congress of Psychology』, PACIFICO Yokohama, 2016年7月) [共同・国際] 3) 「The effect of peer group similarity on individual relationship satisfaction with one's peer group」 (『31st International Congress of Psychology』, PACIFICO Yokohama, 2016年7月) [共同・国際] 4) 「社会的支配志向性および集団自尊心が差別的態度に与える影響」 (『第57回日本社会心理学会』, 253, 関西学院大学, 2016年9月) [単独・国内] 5) 「水資源保全活動の促進要因に関する研究」 (『第63回日本グループ・ダイナミックス学会』, 183-184, 九州大学, 2016年10月) [共同・国内]

⑦ [報告書] 1) 「行政組織の水資源マネジメント活動と職員の意識に関する調査」 (『イノベーション政策に資する公共財としての水資源保全とエネルギー利用に関する研究 社会科学グループ』, 2016年3月) [共同] 2) 「『イノベーション政策に資する公共財としての水資源保全とエネルギー利用に関する研究』研究開発成果報告書」 (『国立研究開発法人 科学技術振興機構』, 44, 2016年3月) [共同] [外部資金の取得] 1) 「『場所』の魅力の解明—場所経験が人生移行に与える影響」 (科学研究費補助金 (基盤研究(C)): 研究代表) 2) 「観光者属性の違いによる安曇野観光の調査」 (平成26年度 安曇野市受託研究) 3) 「先端生命科学を促進する先駆的 ELSI アプローチ」 (平成28年度 社会技術研究開発センター (RISTEX) 戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) 「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」: 分担研究者) [学会運営に関わる業務] 日本コミュニティ心理学会研究委員会委員 [その他] 日本コミュニティ心理学会第1回研究法ワークショップ講師 (2016年3月)

清水健司

⑤ 1) 「Effects of cognitive therapy-based lecture and morita therapy-based lecture on rumination of undergraduate students」 (The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology, Yokohama, July) [共同・国外] 2) 「The role of the student-teacher relationship on development of social competence on preschool children」 (The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology, Yokohama, July) [共同・国外] 3) 「自己価値の随伴性が大学生活の意欲に及ぼす影響 —Acceptance and commitment therapy の視点を通して—」 (日本心理臨床学会第35回秋季大会, p.381 パシフィコ横浜 9月) [共同・国内] 4) 「基本的・対人的信頼感が青年の親性準備性に及ぼす影響—子ども観を媒介として—」 (日本心理臨床学会第35回秋季大会, p.327 パシフィコ横浜 9月) [共同・国内] 5) 「自己価値の随伴性と他者操作が抑うつに及ぼす影響」 (日本教育心理学会第58回総会, p.449 かがわ国際会議場 10月) [共同・国内] 6) 「大学生の愛着スタイルと親性準備性の関連—信頼感を媒介として—」 (日本教育心理学会第58回総会, p.452 かがわ国際会議場 10月) [共同・国内]

- ⑥ 1) 独立行政法人自動車事故対策機構適性診断専門委員 2) 日本パーソナリティ心理学会機関誌編集委員会常任委員 (第25期 平成28年度)

長谷川孝治

- ⑥ 1) The effect of regulatory fit on learning motivation. (The 6th International Conference on Self-Determination Theory, Jun. 3, Victoria, Canada) [共同: Hasegawa, K. & Takahashi, Y.] 2) Effects of self-esteem and reassurance seeking on the motivation for negative tweets in the twitter. (International Association for Relationship Research Conference 2016, Jun. 21, Toronto, Canada) [単独] 3) Who tweets negative things about themselves? Effects of self-esteem and reassurance seeking on the tweets in the twitter. (31th International Congress of Psychology, Jul. 28, Yokohama, Japan) [単独] 4) 自尊心と安心さがツイートと他者からの受容認知が感情反応に及ぼす影響——安心感がツイートで低自尊心者は満たされるか?—— (日本社会心理学会第57回大会 関西学院大学 9月18日) [共同: 長谷川孝治・古里由香里] 5) ボイストレーニング・プログラムへの参加経験が心理的健康と夫婦間コミュニケーションに及ぼす影響——高齢男性と配偶者の Well-being を促進するか—— (日本グループ・ダイナミックス学会第62回大会 九州大学 10月10日) [単独] 6) Construction of two-dimensional sense of self scale. Poster presented at the 31th International Congress of Psychology (31th International Congress of Psychology, Jul. 25, Yokohama, Japan) [共同: Sekimori, M. & Hasegawa, K.] 7) 自己の一貫性と多様性に着目した二次元自分らしさ尺度作成の試み (日本パーソナリティ心理学会第57回大会 関西大学 9月14日) [共同: 関森真澄・岡本卓也・長谷川孝治] 8) 自己の一貫性と多様性に着目した自分らしさが Well-being に及ぼす影響 (日本社会心理学会第57回大会 関西学院大学 9月18日) [共同: 関森真澄・長谷川孝治]
- ⑦ 1) 日本社会心理学会理事 2015年4月～2018年3月

山本英二

- ① 1) 「なぜ偽文書は作られたのか」(西谷大編著『ニセモノ図鑑』pp58-70, 河出書房新社) [共著]
- ② 1) 「元禄十年信濃国今井陣屋代官手代浅利吉右衛門「口書一札控」について」(『信州大学人文科学論集』第3号・通巻50号, pp169-213) [単著]
- ⑥ 1) 松本人権推進古文書研究会・史料集刊行記念集会講演「古文書からみた長野県内の被差別部落」(長野県松本市 M ウイング, 3月29日) [単独] 2) 高井地方史研究会50周年・信州中野天領シンポジウム基調講演「江戸幕府法令の布達と伝達」(長野県中野市中央公民館, 10月16日) [単独] 3) 古新会21・古文書に親しもう・古文書と郷土の歴史講演「魚沼神社の至宝」(新潟県小千谷市魚沼神社社殿, 10月23日) [単独] 4) 三河地域史研究会大会報告「名奉行大岡越前の偽文書裁き」(愛知県豊橋市愛知大学, 11月12日) [単独] 5) 2016年度第4回長野市人権教育指導員研修会講演「高校教科書で学ぶ江戸時代の人と身分」(長野市中央隣保館, 11月25日) [単独]
- ⑦ 1) 講座「江戸時代の謎と不思議—大名・村・町・習俗—」(名古屋市・栄中日文化センター, 2月19日, 3月18日) [単独] 2) 講座「江戸時代の謎と不思議—近世の宗教と神

社・寺院」(名古屋市・栄中日文化センター, 4月15日, 5月20日, 6月17日, 7月15日, 9月16日) [単独] 3) 講座「日本史の謎と常識」(名古屋市・栄中日文化センター, 10月21日, 11月18日, 12月16日) [単独] 4) 愛知大学文学部春学期非常勤講師「日本史学講読」 5) 徳川林政史研究所特任研究員 6) 関東近世史研究会評議員

#### 大串潤児

- ① 1) 大串潤児 [単著] 『銃後の民衆経験 地域における翼賛運動』岩波書店, 2016年5月, 310+viii頁。
- ② 1) 大串潤児 [単著] 「教科書訴訟・教科書問題と現代歴史学」『岩波講座日本歴史22歴史学の現在』岩波書店, 2016年2月, 287~320頁 2) 大串潤児 [単著] 「「戦後70年」の歴史意識と同時代史研究」『同時代史学会 News Letter』第28号, 2016年5月, 10~14頁 3) 大串潤児 [単著] 「地域のなかの「戦争責任」問題」『飯田市歴史研究所 年報』第14号, 2016年12月, 188~208頁。
- ⑥ 1) 大串潤児 [単独] 「戦争・ファシズム・民主主義 信州の経験から」新安保法制の撤回を求める信州大学人の会第7回シンポジウム, 2016年1月12日, 於・信州大学(松本市) 2) 大串潤児 [単独] 「長野県の近現代史研究について」群馬県現代史研究会第14回例会報告, 2016年3月29日, 於・前橋共愛国際大学(群馬県前橋市) 3) 大串潤児 [単独] 「戦争責任の社会史」神奈川県柏陽高校日本史サマーセミナー, 2016年8月19日, 於・柏陽高校(神奈川県横浜市) 4) 大串潤児 [単独] 「戦時紙芝居論」神奈川大学非文字資料センター共同研究「戦時下大衆メディアの研究」班研究会, 2016年8月28日, 於・神奈川大学(横浜市) 5) 大串潤児 [単独] 「信州と沖縄 地域民主主義の前提となる経験をつなぐ」新安保法制の撤回を求める信州大学人の会第14回シンポジウム, 2016年10月1日, 於・長野大学(上田市) 6) 大串潤児 [単独] 「「冷戦」をどう見るか?」信州自遊塾講座「歴史から学ぼう」第4回, 2016年10月29日, 於・松本市中央公民館Mウイング 7) 大串潤児 [単独] 「「1968」をどう見るか?」信州自遊塾講座「歴史から学ぼう」第5回, 2016年11月13日, 於・松本市中央公民館Mウイング 8) 大串潤児 [単独] 「平和・尊厳・「民衆」 私にとっての「西川正雄の問い」」風樹セミナー「歴史を生きる歴史家 二宮宏之・西川正雄を記念する」2016年11月20日 於・風樹文庫(諏訪市)
- ⑦ 1) 大串潤児 [単独] 「序文」飯田市歴史研究所編『オーラスヒストリー2 戦争と養蚕の時代をかたる』飯田市歴史研究所, 2016年6月 2) 大串潤児 [単独] 「「敗北」からも学ぶ」『平和の種』第63号, 2016年5月15日, 8~11頁 3) 大串潤児 [単独] 「学生の「疑問」から地域史は構成できるか」『飯田市歴史研究所ニュースレター』第84号, 2016年10月1日, 3頁 4) 大串潤児 [単独] 「信州と琉球・沖縄の歴史的経験をむすぶ」(講演記録)『戦争をさせない1000人委員会 上小ニュース』第26号, 2016年10月25日, 7~11頁 5) 大串潤児 [単独] 「歴史教育者協議会第68回全国大会・沖縄 地域に学ぶ集い11教科書問題討論記録」『歴史地理教育』第857号, 2016年11月増刊号, 93~94頁 6) 辞典項目執筆: 「鬼太鼓座」「学習雑誌」「学習塾」「貸本文化」「過疎・過密」「学校」「家庭内暴力」「教科書」「供出」「公民館」「国民精神総動員」「産業報国運動」「思想善導」「自由教育」「常会」「少国民」「少年団」「消防団」「食糧難」「新生活運動」「生活改善運動」「生活記録運動」

「生活綴方教育運動」「青年団」「壮年団」「町村合併」「綴方教室」「丸岡秀子」「山びこ学校」「翼賛運動」, 木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二編『日本生活史辞典』吉川弘文館, 2016年

#### 久保亨

- ① 1) 中村元哉・大澤肇・久保亨編『現代中国の起源をさぐる—史料ハンドブック』東方書店, 2016年, 221頁 [共著] ②久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会, 2016年, 204頁
- ② 1) 「蘇俄在戦時中国：重慶国民政府経済専門家眼中的蘇連経済」, 黄自進編『国共関係与中日戦争』稲郷出版社, 2016年, 89-109頁
- ⑥ 1) 「金融地域結構的変動和日中関係」“埠際往来与互動視野下的上海金融業” 国際研討会, 2016年10月21日, 復旦大学 (上海)
- ⑦ 1) 「高校歴史教育のあり方をめぐって—「世界史」未履修問題表面化以来の日本学術会議の取組—」, 『学術の動向』21-5, 2016年5月, 22-26頁 2) 「日本の近現代史教育と中国認識」, 『現代中国』90, 2016年, 47-48頁

#### 豊岡康史

- ① 『海賊からみた清朝：十八～十九世紀の南シナ海』（藤原書店）[単著]
- ⑤ 「『海の歴史』のなかのアヘン戦争」（『世界史の研究』第246号, pp.53-56）[単著]
- ⑥ 「『緑営廢弛』と『近世』のおわりかた：言説と実態のあいだ」（宋代史明清史合同夏合宿シンポジウム「空間的統合のダイナミズム—「中国」近世再考」, 2016年8月9日, 箱根高原ホテル）[単独]
- ⑦ 1) 講演「200年前の南シナ海国際問題：跋扈する海賊とそれを利用するヤツら」（第71回夕べのセミナー, 人文ホール, 2016年7月12日）[単独] 2) 科学研究費助成事業（若手研究B）「清朝中期の対外関係：「カントンシステム」再検討（1784-1833）」を研究代表者として実施 3) 三菱財団平成28年度学術研究助成「清朝嘉慶期（1796-1829）の政治改革と構造変動：19世紀中国の転換点」を研究代表者として実施。

#### 黒田祐我

- ① 1) 『レコンキスタの実像—中世後期カスティージャ・グラナダ間における戦争と平和』（刀水書房, 総436頁）[単著] 2) 『スペインの歴史を知るための50章』（立石博高, 内村俊太編著, 明石書店, 総396頁）[共著] 3) 『アジア・アフリカにおける諸宗教の歴史と現状』（私市正年編, 上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター, 総100頁）[共著]
- ② 「さまざまな「仲介者」が活躍する世界—中世イベリア半島」（『信大史学』第41号, pp.1-33）[単著]
- ⑤ 「（書評）芝修身『古都トレド—異教徒・異民族共存の街—』（『西洋史学』第262号, pp.81-83）[単著]
- ⑥ 1) 「『境域』史の実像と寛容論—野口舞子氏の書評に対するリプライ」（2016年度第1回「アジア・アフリカにおける諸宗教の歴史と現状」研究会, 上智大学, 6月18日）

[単独] 2) 「拙著『レコンキスタの実像』(刀水書房, 2016年) 合評会リプライ」(早稲田大学西洋史研究会第68回大会, 早稲田大学, 7月9日) [単独] 3) 「文明間をつなぐ仲介者—越境交渉の担い手からみる中世後期イベリア半島のアンダルシア・ムルシア社会の断面」(2016年度第二回ヨーロッパ中世史研究会 (REN) 例会, 青山学院大, 7月30日) [単独]

⑦ 1) 「スペインのシェリーワインと日本文化」(信州大学人文学部2016年度第1回多文化交流サロンの企画運営, 4月15日) [共同] 2) 「バルセローナ古文書館調査」(科学研究費補助金(若手B)「ナスル朝社会復元を目的とするカスティーリャ=グラナダ「境域」の未刊行史料調査」による調査実施, 8月29日~9月6日) 3) 「スペインの事情について」((一社)国際女性教育振興会長野県支部平成28年度海外視察研修者社行会および会員研修会における講演担当, 10月24日) [単独] 4) 「ビザンティン研究者, カップパドキアを歩く」(信州大学人文学部2016年度第5回多文化交流サロンの企画運営, 12月5日) [共同]

#### 野津寛

② “Traductions japonaises d’Homère,” 『信州大学人文科学論集』第3号, p.83-88, 2016年3月15日 [単著]

⑥ “Métamorphose et exil chez Ovide et Apulée,” 2015年9月5日, Tokyo Edinburgh Humanities and Law Seminar, Department of Classics, University of Edinburgh [単独]

⑦ 1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催(2016年3月28日, 早稲田大学) 2) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催(2016年5月14日, アテネフランセ).

#### 渋谷豊

② 「現代フランス小説における第二次世界大戦の表象: ジャン・ルオー『偉人伝』の場合」『信州大学人文科学論集』第3号, p.89-111 [単著]

③ 1) ジュール・ヴェルヌ『海底二万里』(上巻) 角川書店 [単独訳] 2) ジュール・ヴェルヌ『海底二万里』(下巻) 角川書店 [単独訳]

⑤ 1) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈1〉」『ふらんす』(白水社) 4月号, p.74-77 [単著] 2) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈2〉」『ふらんす』(白水社) 5月号, p.42-45 [単著] 3) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈3〉」『ふらんす』(白水社) 6月号, p.42-45 [単著] 4) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈4〉」『ふらんす』(白水社) 7月号, p.42-45 [単著] 5) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈5〉」『ふらんす』(白水社) 8月号, p.42-45 [単著] 6) 「対訳で楽しむサン=テグジュペリ『人間の大地』〈6〉」『ふらんす』(白水社) 9月号, p.42-45 [単著]

⑥ 「両大戦間期のフランスにおける日本近代文学——『フランス・ジャポン』誌(1934~1940)を中心に」(「基盤研究(C): 両大戦間期フランスにおけるジャポニザンの活動」および「基盤研究(C): 昭和10年代における文学の〈世界化〉をめぐる総合的研究」による共催研究会『戦時下におけるメディアと対外戦略』9月6日, 於東洋大学, 白山キャンパス) [単独]

⑦科学研究費基盤研究(C)「両大戦間期フランスにおけるジャポニザンの活動」(研究課題／領域番号16K02530) 研究代表者

氏岡真士

- ①『清印本を中心とした『水滸伝』の研究』(科研報告書別冊, 全120頁) [単著]  
 ② 1) 「七十回本《水滸》的“原刻本”和“坊本”」(『信州大学人文科学論集』第3号, 135-152頁) [単著] 2) 「『杜騙新書』と南方熊楠」(『信州大学人文社会科学研究』第10号, 108-127頁) [共著] 3) 「金・玉と石の物語」(『饗養』第24号, 24-45頁) [単著]

磯部美穂

- ⑥ 1) [単独] *Word Formation as Connector in the Text Construction*. MICOLLAC 2016, 2016年8月16日, 於 Rainbow Paradise Beach Resort Tanjung Bungah Penang, Malaysia, 2) [単独] 「文の意味連結とその言語手段」日本独文学会北陸支部会, 2016年11月12日, 於 金沢大学, 3) [単独] *A Textlinguistic Approach to Learning of Academic Writing*. Linguistic Society of New Zealand, 2016年11月21日, 於 University of Wellington.  
 ⑦信州大学人文学部ドイツ語学・ドイツ文学創立60周年記念シンポジウム「ドイツ的なるもの—*Was ist denn „deutsch“?*」主催, 2016年10月15日, 於 信州大学。

吉田正明

- ②「キャバレーとシャンソン—「シャ・ノワール」を中心にして—」, 『シャンソン・フランスーズ研究』第8号(シャンソン研究会発行), pp.63-84, 2016年12月, [単著]  
 ⑥「キャバレーとシャンソン—「シャ・ノワール」を中心に—」, 第28回シャンソン研究会にて報告(於信州大学人文学部, 2016年10月29日) [単独]  
 ⑦ 1) ワイン研究会シンポジウム パネリスト(於松本市中央公民館(Mウイング), 2016年2月11日) [共同] 2) 平成27年度環境教育海外研修に学生を引率(フランスのボルドー及びラ・ロッシュェル, 2016年2月26日~3月3日) [野津教授と共同] 3) 青木村成人講座講師「長野ワインの可能性と地域活性化」(於青木村公民館, 2016年3月27日) [単独] 4) 第3回東京シャンソンコンクール審査員(於杉並公会堂, 2016年5月7日) 5) シャンソン研究会代表としてシャンソン研究会主催, 第27回シャンソン研究会(於追手門学院梅田サテライト, 2016年5月21日), 第28回シャンソン研究会(於信州大学人文学部, 2016年10月29日) 6) 東京藝術大学演奏藝術センター企画「藝大プロジェクト2016 サティとその時代~世紀末からベル・エポックへ」招待講演「華開く世紀末のキャバレー文化」(於東京藝術大学奏楽堂, 2016年6月25日) [単独] 7) 信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同企画「ラヴェルが描く魔法の世界」トークイベント パネリスト(於松本市中央公民館(Mウイング), 2016年7月19日) [共同] 8) 長野県EU協会通常総会記念講演会講師「フランス文学者が語るシャンソンとワインの魅力」(於犀北館, 2016年7月21日) [単独] 9) 第10回日仏現代作家展実行委員(副事務局長)(於松本市美術館, 2016年8月23日~8月28日) 10) 長野県高等学校文化連盟文芸部主催 長野県文芸コンクール審査委員長 11) 長野県松本美須々ヶ丘高等学校評議員 12) 実用フランス語検定試験松本会場責

任者（於信州大学人文学部，2016年6月19日，11月20日）13）科学研究費助成事業（学術研究助成基金）（基盤C）（平成25年度～平成27年度）による研究課題「文芸キャバレーにおける文学とシャンソンの影響関係」（課題番号25370346）を研究代表として実施（2016年3月迄）

鎌田隆行

②1）「Genèse des personnages reparaisants», Actes du séminaire du Groupe International de Recherches Balzaciennes [電子出版] <http://balzac.cerilac.univ-paris-diderot.fr/seminaire.html>, 2016, pp.1-15 [単著] 2）『『そうとは知らない喜劇役者』——再発見の旅(1)』, 信州大学『人文科学論集』第3号（通巻50号）, 2016, pp.153-168 [単著]

⑤「Balzac, l'éternelle genèse, études réunies et présentées par Jacques Neefs, Saint-Denis, Presses universitaires de Vincennes, 2015, 250 p.», *L'Année balzacienne*, 2016, pp.377-381.

⑥1）『『ゴードイサール二世』と人物再登場』, パリ国際大学都市日本館19世紀研究会, 2016年3月11日, パリ国際大学都市日本館 [単独] 2）「La pensée du livre chez Balzac : spiritualité et matérialité」, 国際シンポジウム「思想家バルザック」, 2016年5月13日, ローマ第三大学 [単独・国際]

⑦1）講演会司会・通訳：ジョゼ＝リュイス・ディアズ「詩人たちの酩酊——アナクレオンからボードレールまで」, 2016年5月18日, 信州大学人文学部 2）学会司会：シャンソン研究会, 2016年5月21日, 追手門学院 大阪梅田サテライト 3）講演：「変貌するパリ——モザイク都市の魅力」, 2016年7月16日, 信州大学人文学部後援会総会 4）学会司会：シャンソン研究会, 2016年10月29日, 信州大学人文学部 5）Groupe International de Recherches Balzaciennes（国際バルザック研究会）執行部メンバー（2008年3月～） 6）パリ第8大学出版会叢書「Manuscripts modernes」学術委員会委員（2014年5月～） 7）パリ・ディドロ大学ジャック・セバシエール研究センター客員研究員（2015年12月～） 8）クラシック・ガルニエ社「Revue Balzac」編集委員（2016年11月～） 9）科学研究費補助金（基盤研究C）「ロヴァンジュール文庫所蔵のバルザック『人間喜劇』生成資料の悉皆調査と目録の作成」（2015年～2017年度, 研究課題番号15K02377）研究代表者 10）外部資金獲得：日本フランス語フランス文学会学会誌「Littera」国際シンポジウム支援の公募による採択（2016年9月）.

花崎美紀

②1）“Words that Seem to Denote “Places” in English and Japanese : English Prepositions and Japanese Postpositions” Proceedings for HUIC (International Conference on Humanities) pp.1～16 [共同] 3）「大学生の英語科指導における内発的動機付けを高め, 小学校の外国語活動の課題を克服するための試み：小大連携を通じた内発的動機付けと学習支援, および地域連携」『地域ブランド研究』第11号, pp.27-39. [共同] 4）「大学生の英語科指導法における内発的動機付けおよび社会への関心を高め, 地域との連携を強める試み：松本子ども留学の中学生との中大連携を通じた内発的動機付けと学習支援, および地域連携」『地域ブランド研究』11号, pp.61-68. [共同] 5）「日本人 EFL（英語第2言語学習者）への効果的な前置

詞教授法：前置詞 With を例にして』『教職研究』第9号, pp.23-34. [共同] 6) 「認知言語学の知見を活かした英語使役動詞 have の教授法とその教育的効果」『教職研究』第9号, pp.35-42. [共同]

⑥ 1) “Words that Seem to Denote “Places” in English and Japanese : English Prepositions and Japanese Postpositions” (上の論文1) と同じ). 2016年1月8日, HUIIC International Conference on Humanities Hawaii University. 2) “Correlation between Logical Thinking, English Ability and Pedagogy : Practicing “ Government Course Guideline ” ” 2016年3月30日, MICLET2016 (International Conference on Language Teaching) Putra Malaya University. [共同] 3) “An Effective Way of Teaching Prepositions to Japanese EFL Learners : A Case Study with With” 2016年8月16日, MICOLLAC (International Conference on Literature, Languages, and Cultures) Putra Malaya University. [共同] 4) 「英語教育・国語教育と論理的思考：日英語比較, および過去30年間の国立大学入試問題分析から見る, 新指導要領への提言」[共同] 2016年9月3日, 日本社会言語科学会, 京都外国語大学 5) 「使役動詞をケーススタディーとした, 論理的思考態度と英語力の相関関係からみる教育法に関する一考察」[共同] 2016年9月3日, 日本社会言語科学会, 京都外国語大学 6) 「As, With, 分詞構文における同時性と因果性の意味読み込み：英語指導要領を実施するための一提言」2016年11月12日, 英語学会, 金沢大学. [招聘講演] 7) 「英語指導要領の実施とその教育効果測定」2016年11月12日, 英語学会, 金沢大学. [共同] 8) 「英語力テストのエラーアナリシスと, 英語力と論理的思考の相関性：新学習指導要領(外国語)の実施を見据えて」2016年11月12日, 英語学会, 金沢大学. [共同] 9) 「同時と因果と譲歩：語用論的強化と意味(含意)の読み込み」2016年12月10日, 日本語用論学会, 下関市立大学. [共同]

⑦ 1) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年7月21日, 伊那北高校 2) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年8月4日, 諏訪青陵高校 3) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年9月16日, 松本深志高校 4) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年10月12日, 長野予備校 5) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年10月18日, 松本予備校 6) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年10月19日, 長野吉田高校 7) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2016年12月21日, 上田染谷丘高校 8) 長野高校 SGH 英語プロジェクトコメンテーター 9) 2017全国大学入試問題正解(国公立大編)執筆・校註 10) 2017全国大学入試問題正解(私立大編)執筆・校註 11) 日本英語学会大会運営委員 12) 日本社会言語科学会大会発表賞委員会委員 13) HUIIC International Conference on Humanities 査読委員 14) 日本生涯学習総合研究所 との共同研究「論理的思考力を測定する新英語テストの検討」実施 15) 科学研究費補助金(基盤研究(C))「英語の前置詞の棲み分け研究と高大連携に基づく自学自習用教材の作成」を, 研究分担者として実施 16) 科学研究費補助金(基盤研究(C))「意味論的視点と高大連携による誤用分析に基づく, 英語前置詞研究と日英語の相同性研究」を, 研究代表者として実施

杉野健太郎

①杉野健太郎／ジョセフ・ラウアー『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎—TOEIC® L&R 新形式対応問題付—』, 2016年12月31日, 朝日出版社 [共著, 英語教科書]。

⑤ 1) 書評 杉野健太郎「吉田迪子ほか著『ターミナル・ビギニング—アメリカの物語と言葉の力』(論創社, 2014年7月, 324頁, 本体3,200円+税)」, 『中・四国アメリカ文学研究』NO.52 (2016年6月), 44-46 [単著] 2) 随筆 杉野健太郎「ウィスコンシン州マディソンでの1年」, 『サウンディングス ニューズレター』第68号 (2016年7月1日), 2-3 [単著]。

⑥学会シンポジウム「モダニズムと宗教」, 第33回日本アメリカ文学会中部支部大会, 2016年4月23日, 愛知大学名古屋キャンパス。山辺省太, 竹内理矢と共同 [共同]。個人タイトル「F・スコット・フィッツジェラルドと宗教」。

⑦ 1) 学会口頭発表司会・座長: 3件 (日本F.スコット・フィッツジェラルド協会2016年度全国大会2016年7月2日 1発表司会, 日本アメリカ文学会全国大会2016年10月1日 1発表司会, 日本英文学会中部支部大会2016年10月15日, 日本映画学会大会2016年11月25日 3発表座長) 2) 学会役員: 日本映画学会副会長・事務局長/日本英文学会中部支部理事・大会準備委員会委員長/F.日本スコット・フィッツジェラルド協会評議員 3) 松本県ケ丘高等学校評議員

速水香織

④「信州大学人文学部50周年記念 日本近世文学会信州大学大会開催記念 信州大学貴重書展」企画・展示 [協同] (2016年11月11-25日, 信州大学人文学部主催)

⑦ 1) くわな市民大学文化科講座「『十六夜日記』を読む」(桑名市中央公民館, 全7回 2016年5-12月) 2) 皇學館大學人文學會学外委員 (2013年10月～現在に至る) 3) 国文学研究資料館国文学文献資料調査員 (2013年4月～現在に至る) 4) 日本学術振興会科学研究費若手研究B・課題番号60556653「出版メディアを基盤とした江戸板浮世草子・俳諧及び作者の総合的研究」研究代表者 5) 日本近世文学会秋季信州大学大会会場校代表 (於信州大学松本キャンパス, 2016年11月12-14日) 6) 「知の森昼どきセミナー 信州大学貴重書展の解説 ギャラリー・トーク」[協同] (於信州大学中央図書館, 2016年11月22日) 7) 日本文学協会委員 (2016年12月～現在に至る)

山田健三

① [共著] 石塚晴通監修『漢字字体史研究二・字体と漢字情報』勉誠出版 (2016年11月発行)

⑥ [単独]「仮名用語再考・再論」(表記研究会シンポジウム, 2016年9月25日, 関西大学)

白井純

① [共著]「キリシタン版の刊行と日本語学習」, 福島金治編『生活と文化の歴史学9 学芸と文芸』竹林舎, pp.526-559

② [単著]「木曾の人, 大脇自笑—末流の長沼流兵法家による「兵要録」本文校訂—」, 信州

大学人文学部地域ブランド研究会編『地域ブランド研究』11号, pp.41-60

⑥ [単独]「落葉集本篇の掲載語彙について」, 第5回キリシタン語学研究会(京都府立大学, 8/22)

⑦ 1)「信州大学貴重書展」展示ならびにギャラリートーク(信州大学中央図書館, 11/11~25) 2) 訓点語学会委員(2016/11~2018/3)

沖裕子

① 1)『跨文化理解と日本語教育(異文化理解と日本語教育)』2015年12月, 趙華敏主編, 高等教育出版社, 北京, 385pp. (「第4章 日本語依頼談話の特徴と日本語教育」pp.107-133, 沖裕子・趙華敏 [共著]) 2)『はじめて学ぶ方言学—多様性をとらえる28章』2016年3月, 井上史雄・木部暢子編, ミネルヴァ書房, 293pp. (「第17章 テンス・アスペクト表現」pp.174-184 [単著])

⑥ 1)「中信地方の敬意表現」(平成28年3月9日, 上田女子短期大学総合文化学科公開講座「信濃のことは一海こそなけれ, 言の葉の幸ふ」, 於上田女子短期大学 [単独]) 2)「談話論からみた長野県松本方言の判断終助詞と通知終助詞」(第102回日本方言研究会, 2016年5月13日, 於学習院大学 [単独])

⑦ 1) 日本語教育学会審査・運営協力員 2) 社会言語科学会発表賞審査委員会委員(2015年4月~2017年3月) 3) 韓国日本語学会一般理事(2014年1月~2017年9月) 4) 長野・言語文化研究会代表(2015年4月~) 5) 国立国語研究所外部評価委員会委員(2016年10月1日~) 6) 八十二文化財団理事(2015年~) 7) 日本学術振興会科学研究費基盤研究C「対照談話論による日本語談話の発想と表現の研究」研究代表者